

島原大変に関する記述中の地割れの成因について

Geological examination of the surface ruptures recorded in the old documents for the "Shimabara Catastrophe" occurred in 1792

井村 隆介[1], 江越 美香[1]

Ryusuke Imura[1], Mika Egoshi[1]

[1] 鹿大・理・地球環境

[1] Earth and Environmental Sci., Kagoshima Univ.

<http://www.sci.kagoshima-u.ac.jp/~imura/>

「島原大変」の記事，特に地割れに関する記述について地形・地質学的に検討し，地表で認められる正断層群との関連について考察した。

その結果，一部の地割れについては，1) 海から山へ（すなわち最大傾斜の方向に）地割れができていて，2) 城下を数 km にもわたって地割れができていて，などの記述から，その成因を地すべりに求めるのは困難であることがわかった。さらに，地割れが確認された位置，変位の方向やその量，地割れの性質などについて検討を加えた結果，「島原大変」に関する史料中にみられる地割れの記述のいくつかは，千々石断層と赤松谷断層の2つの活断層の運動によって生じた変位地形と考えた方がよいという結論にいたった。

島原半島の雲仙普賢岳は，寛政三年（1791年）から翌年にかけて，溶岩流出（新焼溶岩）を伴う噴火活動を行った。噴火活動が終息したかに見えた寛政四年四月朔日（1792年5月21日），島原半島の直下で地震が発生し，それによって生じた眉山（前山）の崩壊と津波によって，約15000人の死者をだした。一般に「島原大変」と呼ばれる事件である。

「島原大変」に関する史料は数多く残されており，その内容についての地質学的解釈が片山（1974，九大島原観測所研報）や宮地ほか（1987，九大教養地研報）などによってなされている。片山（1974）は，一連の地震活動に伴って多数の地割れが生じていたことを明らかにし，その原因を眉山の崩壊に伴う地すべりに求めている。一方，島原半島には，いわゆる別府-島原地溝の一部をなす正断層が多数存在するが，これらの運動と「島原大変」の一連の地震活動との関連について詳細な検討はこれまでなされてこなかった。

演者らは，『新収日本地震史料』に収められている「島原大変」の記事，特に地割れに関する記述について地形・地質学的に検討し，地表で認められる正断層群との関連について考察した。

その結果，一部の地割れについては，1) 海から山へ（すなわち最大傾斜の方向に）地割れができていて，2) 城下を数 km にもわたって地割れができていて，などの記述から，その成因を地すべりに求めるのは困難であることがわかった。さらに，地割れが確認された位置，変位の方向やその量，地割れの性質などについて検討を加えた結果，「島原大変」に関する史料中にみられる地割れの記述のいくつかは，千々石断層ならびに赤松谷断層の2つの活断層の運動によって生じた変位地形と考えた方がよいという結論にいたった。